湖(うみ)から洋(うみ)へ、地域をつなぐ広報誌

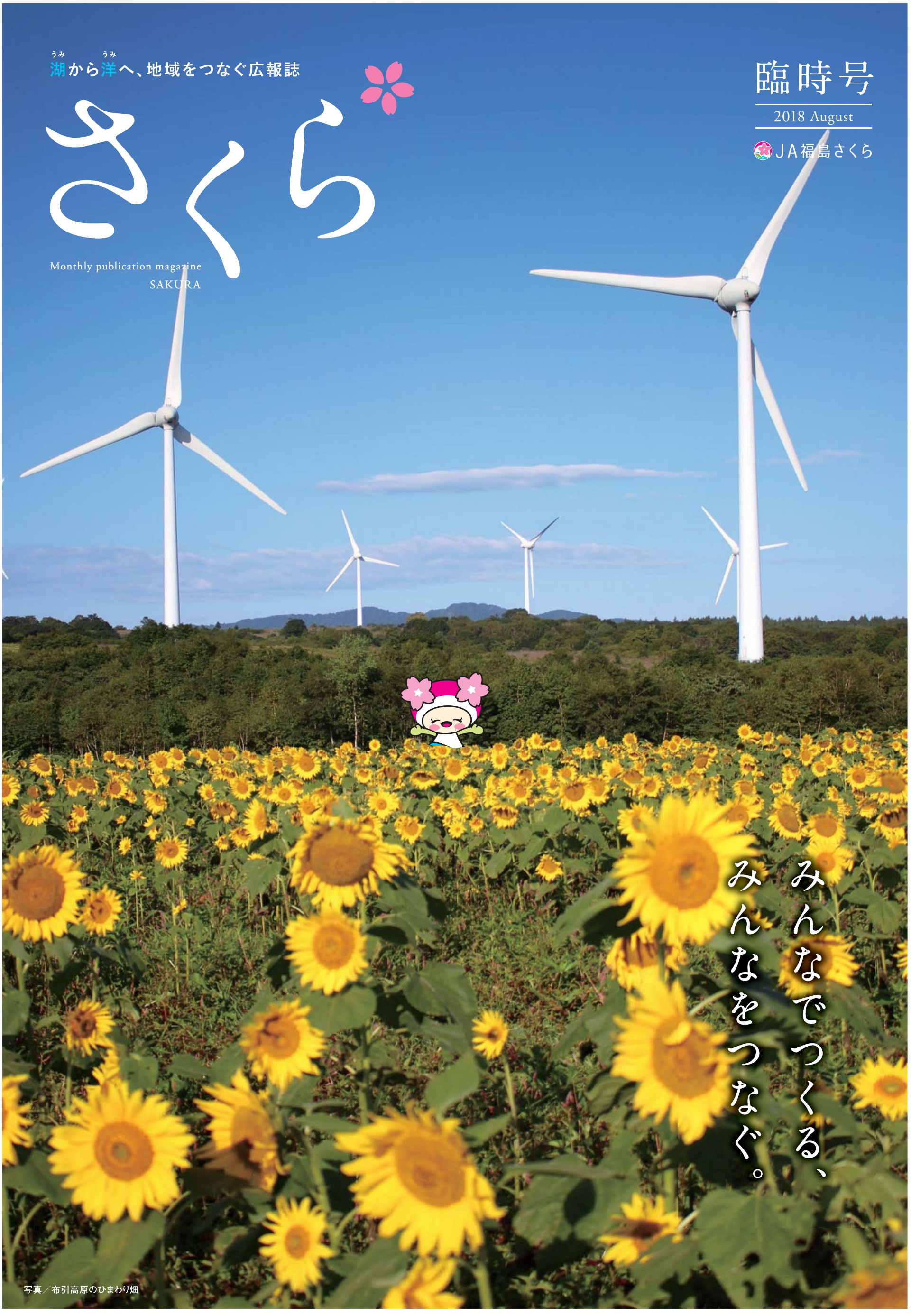
さくら

Monthly publication magazine
SAKURA

臨時号

2018 August

JA福島さくら



みんなでつくる、
みんなをつなぐ。

写真／布引高原のひまわり畑

地域と共に。もっと、よりよいJAを目指して。

私たちは3つの大きな目標を達成するために、
これからもチャレンジし続けていきます。

JA福島さくら 3つのサポート体制

サポート1 専門家との協力

営農生活支援や経営支援は、弁護士や公認会計士などと協力して行います。

サポート2 信用・共済サポートの強化

資金面でのバックアップ。さらに、保障面で安心をサポート。

サポート3 人材育成

農業者サポートスキルを向上し、よりニーズに応えられる組織に。

農業者の所得増大

風評対策

国や県と協力し、風評払拭を目指し取り組んでいます。

米の放射線量検査

●全量全袋検査を継続実施します。

GAP指導人材の育成

●指導人材を育成しています。

GAPプロジェクトチーム設立

●導入高速化プロジェクトチーム設立をします。

風評賠償

●JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策福島県協議会と連携して、風評被害の賠償請求を行います。

コスト削減

協同組合だからこそできる大量購入によって生産資材のコスト削減に向け取り組んでいます。

系統と連携した品目集約への流れをさらに拡大し、かつ、仕入れ機能の強化・改革へ取り組んでいきます。

生産資材仕入れ機能強化

系統・商系問わず、安価で提供できるための仕入交渉を徹底的かつ継続的に実施し、更なる組合員の低コスト農業実現への取り組みを強化します。特に農ポリ・マルチ等の生産資材について、商品・規格の統一や発注の一元化をすすめます。

大型トラクターの開発・全国共同購入

全農との連携により、全国約1万人の生産者の声を集約し、必要な機能のみに特化した大型トラクターの開発および全国共同購入に取り組み、低価格を実現します

【生産者が要望する機能】
●60馬力クラス ●自動水平制御 ●倍速ターン 等

農業生産の拡大

農家応援団事業

地区ごとに生産者が抱える課題に合わせた支援策を実施しました。

郡山地区

●園芸用パイプハウス設置（平成27年度より）

●農産物直売所旬の庭 秋冬野菜の販売 約24%増

たむら地区

●露地ピーマンの収穫量 約24%増

●自動潅水設備設置（慣行区比）

いわき地区

●新規作付者促進など

●ファーマーズマーケットの売上 約10%増

ふたば地区

●園芸支援による販売高 約13%増

農業施設整備

福島再生加速化交付金を活用し、各町村において農業用施設の整備が進められています。

米低温倉庫〈川内村〉

●平成29年9月福島県内初「自動ラック式」コメ低温倉庫が完成

ラック式低温倉庫〈葛尾村〉

育苗センター カントリーエレベーター〈楢葉町〉 ラック式低温倉庫

施設整備計画の協議〈浪江町〉

モデル牛舎建設

畜産農業の基盤が衰弱している現状を打破するため、モデル牛舎を設立し、最新の繁殖設備や機械を導入。畜産経営のモデルを目指し、3つの事業に取り組みます。

キャトル事業	ブリーディング事業	コントラクター事業
子牛・育成牛の飼養受託	子牛の生産出荷	飼料作物の生産・販売

※上記実現のため、JA出資型農業生産法人「株式会社JA和牛ファーム福島さくら」を設立しました。

地域の活性化

くらしの活動

元気でたくましい農業の実現に向け、老若男女が暮らしやすい地域を目指します。

次世代就農者向けイベント

次世代を考える取り組みとして、親子大学や婚活パーティなどのイベントを開催しています。

平成29年10月に行われた婚活イベント「青空婚Ciel.bleu」

介護・医療

●施設の充実（管内19箇所、平成30年2月現在）

●介護職員 初任者研修の実施

安全・安心

●アンパンマン 交通安全教室の実施

●声掛け運動の実施（広報誌配布時に一人暮らしの高齢者に向けて）

アクティブメンバーの拡大

組織基盤強化や地域とのコミュニケーション促進のための活動です。

地域住民に愛されるJAになるための情報発信強化

●コミュニティサイト「TORETATE」オープン

●コミュニティ情報誌「さくらレター」発行

●公式キャラクター「さくらちゃん」登場

●コミュニティスペース「さくらギャラリー」オープン

組織内の情報共有強化

●広報誌「さくら」戸別配布開始

自己改革に関する情報発信

●広報誌「さくら（臨時号）」発行

ごあいさつ

～地域と共に成長する組織を目指して～

平成28年3月1日、5ＪＡ（郡山市、たむら、いわき市、いわき中部、ふたば）が合併し、ＪＡ福島さくらが誕生しました。管内の面積は3,510㎢、3市8町2村で管内の人口約80万人のＪＡとなり、今年で3年目を迎えました。

こうしたなか、平成28年4月に改正農協法が施行され、政府が進める農協改革集中推進期間である平成31年5月を見据え、ＪＡグループは生産資材の価格低減や農家応援団事業、農業融資への取り組みの強化等により、組合員との結び付きを強め、その成果の「見える化」を図り「自己改革」を具体的に進めております。また、徹底した対話や地域に顔が見える行動により、評価される組織を築くため、平成31年4月に実施いたします「全組合員調査アンケート」までに組合員に当組合の自己改革に関する取り組みを知ってもらうための活動を行っております。

今後も、地域の特性を活かしたくらしの活動や地域に密着したサービスを提供して参ります。

福島さくら農業協同組合
代表理事組合長
結城　政美

協同組合とは?

一人はみんなのために、
みんなは一人のために

これは世界の協同組合の合い言葉。

協同組合という言葉を初めて聞いた人もいるかもしれません。

協同組合とは、同じ目的をもった個人や事業者が集まり、お互いに助け合う組織です。JAは、農業者を中心とした「組合員」が、農家の営農と生活を守り高めることなど、よりよい地域社会を築くことを目的に組織された協同組合なのです。人間は、一人では生きていけません。助けあい、つながっていくことで暮らしの安心や豊かさを感じ、喜びや笑顔が生まれていくものだと思います。

JAは様々な取り組みを通じて、次世代を担う若い人たちに「助け合いの精神」を伝えていきます。

自己改革とは?

JAでは、農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化を実現するため、様々な自己改革に挑戦しています。JAグループ福島では特に「安心・安全なふくしま農業」の復興に向け、取り組みをすすめています。

これからも、農業のさらなる成長を盛り上げていくため、一層スピードアップして改革をすすめます!

JAの直売所でおトクにお買い物!

JAカードはお得がいっぱい! JA直売所やファーマーズマーケットなど、対象直売所でのJAカードご利用分について、カード利用代金請求時に5%割引いたします。

JAカードのご利用でご請求時に
5%OFF!

JA福島さくら

平成30年（2018年）8月発行

【発行・編集】福島さくら農業協同組合 総務部総務課
〒963-8502 福島県郡山市朝日二丁目14-7
TEL.024-922-3733　FAX.024-923-8904
http://www.ja-fsakura.or.jp